

会議の概要

令和3年度 第8回

おおたま学園コミュニティ・スクール委員会

兼 ○ 大山幼稚園学校運営協議会 ○ 玉井幼稚園学校運営協議会
○ 大山小学校学校運営協議会 ○ 玉井小学校学校運営協議会
○ 大玉中学校学校運営協議会

日 時：令和4年1月13日（木）18:30～20:20

場 所：改善センター1，2階 多目的ホール他

（進行 指導主事 斎藤一範）

1 開会のことば （おおたま学園コミュニティ・スクール委員会副会長 吉田 都）

皆さん、こんばんは。改めまして、明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。それでは、これから令和3年度第8回おおたま学園コミュニティ・スクール委員会（以下CS委員会と略記）を行います。よろしくお願いいたします。

2 教育長あいさつ （大玉村教育委員会教育長 佐藤 吉郎）

○ 明けましておめでとうございます。現在、オミクロン株が爆発的に感染しております。

今日の午前中、定例教育委員会があり教育委員さんからも質問がありました。昨日、文科省からの通知が来ており、それによると結論として今のところ何も詳しいことは分かっていない。厚生労働省から様々な情報は入っているが、それに対して今すぐ手を打つことは考えていないということである。1月7日現在、オミクロン株については厚労省から以下の見解が示されている。

- ・従来の株に比べ感染性が高い可能性がある。重篤度については十分な疫学的情報がなく不明である。
- ・再感染やワクチン効果について再感染リスクの増加があり、また、ワクチンの効果を弱める可能性がある。



このくらいの情報である。これから情報が来たならば、村の関係機関との連携を図りながら丁寧に対応していきたいと思うのでよろしくお願いいたします。ただ、現在の状況を見ると、1月末から2月はじめにかけて感染者が増えるのではないかと考えられるので、2月19日（土）開催のコミュニティ広場をどのようにするのかについても考えていかなければならない。

- 卒業式が近くなってきた。卒業式については、校長会でも話し合っているのだが、来賓の参加をどうするかということである。校長先生方は、「地域と共に歩む学校」であるので、CS委員さんはじめ多くの方々においでいただきたいという意向なのだが、それが叶えられるのか慎重に判断しながら対応していきたいと思う。もし、叶えられなかった場合はお許しいただきたい。
- 今日は、福島大学の森本先生の研究室の学生が参加している。森本先生は、おおたま学園の算数・数学のアドバイザーをされている方で、大変お世話になっている先生である。先ほど、学生さん

たちに自己紹介をしていただいたのだが、全員1年生で地域との関わりについて関心を持っている。
「教育は学校だけではできない」といった感覚を持っている学生さんたちなので、これを機にまたおいでいただきたいとお話ししたところである。

- カラーのプリント『全国CS連絡協議会会報 特別号』をご覧いただきたい。去年の12月24日に発行された文書である。これは、東京都三鷹市で11月6日（土）に全国研究大会を行う予定であったが、このような形（オンライン）で実施したという速報である。詳しくは後でご覧いただきたいが、三鷹市の貝ノ瀬教育長の挨拶で驚いたのは、“学校3部制”という言葉を使っていることである。どういうことかと言うと、地域性を生かして、学校を学校教育（第1部）だけでなく学校部活動含む放課後活動の場（第2部）、生涯学習やスポーツ、地域活動の場（第3部）として活用するために機能転換を図るということである。この話を聞き、「なるほど」と思った。実は大玉村で取り組んでいる生涯学習事業の中に「おおたま生き粋大学」というものがあり、約60名の方々に参加いただいている。今年はコロナの関係で4回しか活動できなかったが、その中の一つの活動で、玉井小学校にお世話になり11月10日（水）に“子どもたちと一緒に音楽を楽しむ会”を行った。参加後の感想を聞いてみたところ非常に好評だった。以前大山小にお勤めになったことのある青田先生にお世話になって歌を歌ったりしたのだが、アンケートの「非常に満足」の欄に二重丸をつけた方がたくさんいらっしゃった。生き粋大学の方々から「来年もぜひお願いしたい」という要望もたくさん上がった。

（以前にも話したと思うが）平成29年に出張で東京に行った時に、兵庫教育大学の小西先生が「学校は地域の教室」「授業は地域の文化」というお話をされた。学校は子どもたちだけではなくて地域の教室であり、地域の人たちが入って行ってそこで一緒に活動するものという考え方が、これは今大玉でも進めている教育の一つでもある。

- 地域学校協働活動の中で取り組んでいる事業の一つに、中学3年生を対象にした“未来塾”というものがある。これは、平成28年3月10日に福島大学人間発達文化学類と協定を結び、「共に学ぶ大玉の教育」ということで、子どもたちも学生も“共に学ぶ”ということで実践してきた。毎年中学3年生の約半数の子が参加し、今年度は、8月から12月まで12回の学習会（1回はコロナにより中止）を行った。学習サポーター（学生）は、全12名中6名が地元の学生で、他の市町村からの参加が6名であった。（教育委員会の職員が杉田駅から会場までの送迎をした。）

12月25日（土）が最後の回だったので、大玉中の安田校長先生にも出席いただいて閉講式を実施したのだが、その中で大学生は子どもたちに対して非常に素晴らしい挨拶をしてくれた。これから受験に臨む中学3年生に対するエールと言えるものだった。閉講式後、クリスマスでもあったのでケーキを食べながら学生たちと話をしたのだが、学生たちは将来に向けての思いを語ってくれた。こういうものも地域学校協働活動の一つであるので、報告させていただいた。

今日の中身については要項に記されている通りです。時間を有効に活用していただきたいと思います。本日はよろしくお願いします。

3 おおたま学園CS委員会会長あいさつ （おおたま学園CS委員会会長 伊藤 和弥）

- 改めましてお晩でございます。また、明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いします。本日は真冬の寒い中おいでいただきありがとうございます。
- 日に日にこのオミクロン株の状況が悪くなってきていて心配なところがあるのだが、私たちCS委員会も昨年からいろいろな経験をしながら新型コロナに対応できるような形で進めてき



た。ただ、残念なのは、本来の目的である地域の皆さんと子どもたちが接しながら学び合う機会が少なくなっていることである。私たちも知恵を絞りながら、子どもたちにとってどのようなことができるのかを考えながら進めていければいいと考えている。

- 1月末から2月にかけて、学校関係者評価で皆さんには各校園に集まり、お話しいただく機会があると思う。今先生方は本当に一生懸命頑張っている。そのようなこと等を含めて、改めて再発見・共有しながら評価するわけだが、堅苦しくなくいろんな話をしていただきたい。
- 今日は時間は限られてはいるが、熟議も予定されている。様々な意見をお話しいただければ幸いです。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

4 諸連絡

(指導主事 斎藤 一範)

- 本日の日程・内容について

＜本日の協議題＞

- (1) 第3回おおたまコミュニティ広場(第13回青少年フォーラム)最終打合せ
- (2) 令和3年度CS委員会活動についての説明
- (3) CS委員会の運営について
 - ① 各園・各校ごとに熟議
 - ② 各校・各園からの報告
 - ③ 全体共有

5 協議

(座長 CS会長 伊藤 和弥)

(座長) それでは協議を進めさせていただきます。まずは第3回おおたまコミュニティ広場最終打ち合わせということで、当日の運営の流れ、役割分担、進行表との説明を事務局よりお願いしたい。

(1) 第3回おおたまコミュニティ広場(第13回青少年フォーラム)最終打合せ

① コミュニティ広場当日の運営の流れ、役割分担、進行表等の説明 (指導主事 斎藤一範)

＊資料に基づき説明

ア 内容・方法の説明

- 発表の順序について
 - ・「各学校代表児童・生徒1～2名より、発表内容の紹介をする」からスタート。
 - ・大山小5年「おしえてあげたい 大玉村のひみつ」
 - ・玉井小6年「私たちのふるさと大玉村～田植踊・文化・人々との関わりから～」
 - ・大玉中1, 2年「大玉中学校の地域貢献の取組」とした。
- CS委員の集合時刻は7時40分とする。
- 受付は8時45分から(8時30分からできるよう準備)
- 各校の発表リハーサルは8時より(7時55分集合)
- 第2部フリートークについて … 16グループ
 - ・各会場のフリートーク(小グループ) … 50分間
 - ・グループで話し合った内容の共有… 15分間〔5分×3〕＜ワールドカフェ形式＞
(グループの半数が残り、他のメンバーは他のグループに行き、話し合われた内容を共有する。多くのグループの考えを共有できるように、事前に誰がどのグループの発表を聞きに行くのかを決めておくようにする。)

イ 役割分担

- 全体会(開会式・第1部・第2部・閉会式の進行は副会長が、会長は挨拶を行う。)
- フリートークの際の小グループの進行はCS委員が行う。

ウ 係分担

- C S 委員と教育委員会職員による。

エ 会場他

- 参加は130人限定とした。改善センター内のほとんどの部屋を使用する。(新型コロナウイルス感染防止のため)
- 受付で検温の結果、37.0℃を超える場合は、再度検温し、それでも37.0℃を超える場合は参加を控えていただくようにする。
- 現在のところは開催予定ではあるが、今後の感染状況を見通せないところがある。開催可否の判断については、C S 役員会に一任いただきたい。

オ 進行表について

- 1部についてはそのまま。(リハーサルを行うのでスムーズに流れると思われる)
- 第1部終了後、移動・休憩の際に机を配置し直す。
- 第2部について … 司会はC S 委員なので時間配分を念頭に置きながら進めてほしい。

＜グループの話し合い＞ 10:05～10:55

- ・付箋（できることややってみたいこと → 大玉中：赤、大山小：青、玉井小：黄色）に各自に記入してもらう時間を経て話し合う流れである。
- ・子どもたちの発表に提案の内容がない場合は、大玉村のよさを生かしてできることや、やってみたいこと等について話し合う。
- ・付箋に記入いただいた考えを、順番に参加者に出していただき、学校ごとに整理していく形で進める。

＜ワールドカフェ形式の共有＞ 10:55～11:10

- ・班の中で後半のグループは他の班の説明を聞きに行く。(5分)
 - ・班の中で前半のグループが他の班の説明を聞きに行く。(5分)
 - ・はじめのグループに戻り、説明を聞いた内容を共有する。(5分)
- 移動に関しては事務局が館内放送をする。

② 質疑応答

(座 長) ありがとうございます。
一ぺんに説明を受けるとなかなか覚えきれないこともあって、しかも今回初めて参加する方もいて心配なところもあると思う。実際に携わってみると緊張するところはほぼない。フリートーク等で楽しく話し合いをしていただければいいと考えている。



最初に確認したいことは、新型コロナウイルス感染症に関することである。先ほど斎藤指導主事から説明があったが、このオミクロン株は今後どんな状況で、どんなふうに進んでいくかわからない。後日集まってどうするか再協議するのが難しいことも考えられるので、県から出ている判断基準に基づいて、役員会（会長、副会長、校長等）で決定させていただくことでよろしいか。

(C S 委員) ～ 全員賛成 ～

(座 長) 賛同いただきありがとうございます。その他運営面等何か質問事項があればお願いしたい。

(浅和委員) 発表については、最終形は各校にお任せということで問題はないと考える。子どもたちはいろいろと発表準備をしていると思うが、動画の収録をしておくなどして、万が一動画配信になった場合の対応を検討した方がよいと考えるが…。

(斎藤指導主事) ご質問の通りだと思います。子どもたちは発表に向けて準備をしているが、昨年度も動画を YouTube で配信しているので今年度も同様にしたい。1月の『広報おおたま』に視聴用のQRコードを載せるので、そちらから見られるよう準備をしているところである。ライブ配信のQRコードと、万が一動画配信になった場合のQRコードは同じで、どちらにも対応できるようにする。

(座 長) 去年も当初開催を計画していたのだが、コロナの関係で実施できず、収録したものを配信したという経緯がある。その時の動画を私も見たのだが、何回でも視聴できるような内容であったし、それについてのアンケートも「提出期限は〇〇日まで」という形で行った。本当は現地でやれるのが一番いいのだが、別な形ではあるが、充実した内容だったと思う。

その他質問事項はあるか。

(CS委員) ～ 特にない様子 ～

(座 長) 続いて、「令和3年度コミュニティ・スクール委員会の運営についての説明」について事務局からお願いしたい。

(2) 令和3年度CS委員会活動についての説明 (指導主事 斎藤 一範)

＊資料に基づき説明

① 令和3年度の重点(基本方針)について新しく加えたこと

- CS委員会における熟議においては、各校園の経営計画や現状、課題等を共有する機会を設け、学校・家庭・地域が一体となって教育活動を充実させるための取組を検討する。

② 令和3年度おおたま学園CS委員会活動内容について

- 令和3年度は、CS委員会を年9回行った。

- ・ 最初と最後の2回は各校園の経営・運営ビジョン等について

- ・ オープンスクール後の学校運営協議会が3回

- ・ 4回の熟議のテーマについて

「保護者・地域住民の教育活動への協働・参画を増やすためには」

「学力調査を踏まえて、学校や家庭・地域でできることややってみたいこと等について」

「令和4年度各校・各園の学校運営方針(案)について」

「CS委員会の運営について(今年度の活動を振り返って/次年度の活動を見据えて)」

- この後、グループに分かれての熟議の中で、今年度の振り返りと次年度に向けてということで、次年度こんなことを重点にしてやっていきたいとか様々な意見をいただければと思っている。

(座 長) それではグループに分かれて熟議をお願いします。

～ 移 動 ～

(3) CS委員会について各園・各校ごとに熟議

① CS委員会の運営についての熟議

(今年度の活動を振り返って / 次年度の活動を見据えて)

※ 各校・園別の班ごとに熟議を進める。



② 各校・各園からの報告

(座 長) それでは熟議を受けての各校・各園からの報告ということで、大玉中学校からお願いしたい。

<大玉中班>

(校長 安田 浩明)

- C S 委員と学校との連携はうまくいっているのではないかな。コロナ禍ではあるが、さらに子どもたちとC S 委員との関係がもっと深まっていけばよい。なぜなら、子どもたちの発想は大変豊かであって、その発想を吸い上げていきたいと考えるからである。一人1台タブレットが配付されているので、タブレット等をうまく活用して関係性を深めていければよい。



- ここ2年間おおたま・オータム・フェスタが実施できなかったのは本当に残念だった。これを運営していくメンバーが変わってしまい、うまく次年度につなげられるのかが心配である。
- 今回のおおたまコミュニティ広場を YouTube で配信するのはよい方法である。広く村民の方々に見ていただいたり、来ていただいたりすることは大事である。また、中身が堅いイメージになっていないだろうか。「見ると本当は楽しいんだよ」というPRも大事であり、ネーミングの工夫をしてはどうか。
- 前回の学校関係者評価についての研修はとても役に立った。特に初めてC S 委員になられた方々にとっては、「評価」というものをよく理解できたということで来年度もぜひ実施していただきたいと思う。ただ、その後熟議が設定されており限られた熟議の機会でもあるので、別枠で(例えば学校で言うところの初任者研修会のように)C S 委員に新しくなられた方の研修として設定してはどうだろうか。(ただ、これまでいたC S 委員の方々には希望で入っていただくようにする。)そのような形にできないだろうか。
- 熟議の枠組みのメンバーについてだが、去年とはちょっと違うと思ったところは、固定したメンバーではなくて、いろんな方たちでシャッフルして熟議が行われているので、他校のことがよく分かり良かったと思う。(いろんなメンバーでの熟議はとても楽しかった)

<大山小班>

(校長 館脇 一弘)

- 今日は、一番大事な熟議の柱として「熟議の続き」という言葉が出た。学校についての熟議の内容には、すごく対応していただき学校はとても助かった。熟議をきっかけに実現されたことがたくさんあった。民間・家庭・地域においては、話し合ってもあまり進まなかったことが多かったのではないかな。そこで、専門チーム(課題解決をしていく組織)を作り実践していくといいのではないかな。



- 熟議4回のテーマはどれも外せないテーマであった。大玉中の話でも出たが、熟議のグループのメンバーが替わるのはとても良い。
- 教育委員会事務局の関わり方がすごく良い。そのおかげでこのC S の活動がうまくいっている。

<玉井小班>

(校長 小林 雄)

- 熟議の中で話が盛り上がるのだが、なかなか時間がとれないことも多い。もう少し内容を絞ってもよい。
- 「このようにC Sでたくさん意見をいただいているが、学校で生かされているのか」という質問があった。職員にきちんと話してすぐに取り組めることは取り組むというようにしているので心配はない。
- 学校に我が子がいず、保護者でもないで、なかなかピンとこないこともある。オープンスクールで学校を実際に見ていただいているが、研究授業などのかしこまった場ではなく、地域の方々が学校に入って学習支援とか学校支援とかいろんな活動をしている…、そんな姿をC S委員の方々に見ていただきたい。そこからまたいろんな感想をいただけるのではないかな。
- C Sと大玉村の特色である地域学校協働活動、この関係性がこれから大事になってくると思うが、まだそこが整理されていない。そういうところをこのC S委員会でも議題として取り上げ、話し合うことも大事ではないだろうか。
- C S委員会のメンバーの方々の専門性等それぞれの特性を生かした意見をいただければ良いのではないかな。



<大山幼班>

(C S 委員 浅和 博栄)

- 熟議によって、幼稚園のいろいろな行事とか生活とかの部分で現状をがこんな感じであるという情報を共有した。
- コロナ禍ではあるが、幼稚園ではマスクをするのもなかなか容易ではない子どももいる。そういった中で、よりみんなが安心するためにはどういったことが必要か話し合った。例えば、学校支援ボランティアの方々に簡易検査を積極的にやっていただき、園児も保護者も教職員も安心して活動できる環境をC Sとして考えていくのはどうだろうか。



- どうしても幼稚園の保護者同士の付き合いが中学校までずっと続いていく。そういったことを考えると、現在の幼稚園での保護者間のつながりはとても薄い。P T Aの役員関係でもなかなか次の役員が見つからなかったりとか、そういうところにも表れてきている。そういったことがあるので、幼稚園に限らないのだが、保護者同士で共有できるもの、または保護者同士がつながる活動等についてもC S委員会として検討してはどうだろうか。

<玉井幼班>

(副園長 後藤 弥和子)

- 活動を振り返って
 - ・ C S委員会の回数について → 熟議の内容がとても良かった。
 - ・ 講演会に初めて参加した方にとっても、何回も話を聴いている私たちにとっても勉強になって良かった。

- ・ 熟議のメンバーシャッフルはともいいのだが、毎回のCS委員会の中で5分でも10分でもいいので学校関係者評価のメンバーで情報交換の時間があるといい。
- ・ フェスタが中止になったのはとても残念だった。
- ・ 次年度の活動内容も今年度通りで良いのではないかな。



③ 全体共有

(座 長) 各校園より充実した話が出され

たと感じた。もう少し聞いてみたいこと、確認したいこと、意見、感想などでもいいので出していきたい。

今日は福島大学からもおいでいただいているので、自己紹介を含め感想をいただきたい。

- 本日は貴重な機会に参加させていただきありがとうございました。率直な感想ではあるが、大玉村の方々が村のことを愛しているというか、子どもの教育にける熱い思いが伝わってきた。お話を伺って学ぶことがたくさんあったので、これからの自分の研究に生かしていけたらいいと思った。
- 参加させていただいた話し合いの中で、地域貢献だったり地域振興だったり、地域のことを考えるだけでなく、子どもたちの教育、子どもたちの可能性をどう広げていくか等についても地域の方々も参加され考えていらっしゃって、本当に大玉村が教育においても地域においてもすごく素敵な村なんだと感じさせられた。私も地域教育にとっても関心があるので、今日話を聞かせていただいて、私のこれからの研究や学習につなげていきたいと思っているし、将来もし教員になれたならばこのような活動を実践できたらと思った。
- 私が参加させていただいた話し合いの中で特に印象に残っているのが、地域の方々が学校にいらっしゃって、学校の校庭の草刈りをしたり家庭科の包丁を研いだりしてくださったりするという話だった。私が生活していた学校ではあまりそのような経験はなかったので、ものすごく地域と学校との関係が深いんだなと感じた。そういう学校づくりや地域づくりを、これから他の地域や自分の住んでいる地域で実践できるのかということを研究していきたいと思う。
- 自分は大学で地域コミュニティについての講義をとっているのだが、“地域と教育現場の関わりが少ない”という問題がよく出てきていて、自分もそういう問題に対してどういった解決策があるのだろうか毎回考えているだが、今回大玉村のこういった話し合いを聞かせていただいたことで、地域住民と教育現場の交流が増えていく中で、地域の問題が解決するんだろうなと思った。
また、大玉中学校の話を聞かせていただいた時に、地域の方が積極的に学校に訪問していろいろな活動をしているというのを聞いて、すごく感銘を受けた。今後自分は地域と学校の関わり方について研究して、将来教員になった時に地域と関わりをもっと、もっと生徒が地域の方々といろいろと交流を通して、地域のことをもっと好きになってもらえるような学校をつくれるように学んでいきたい。
- 一番印象に残った話は、地域とのつながりがあることによって教員自身が学べるということだった。「なるほど」と思った。地域の方が校庭に遊びに来るという話があったのだが、そうすることで先生の多忙化が防げるというか、問題の解決ができたり、地域と連携していることによって、先生が子ども個人と関われる時間が増えていくメリットがあるということを学ぶことができたのでよかったと思っている。

また、「大玉村の大人は一生懸命にやっているんだぞ」という姿を見せることによって、子どもから保護者に話が伝わって、学校ではこういうことが行われているんだということが安心にもつ

ながっていくのかな等考えられるので、本当に地域と学校のつながりというのはとても大事なことでと改めて認識することができた。

(森本教授) 今日このような機会、そして感想まで述べる機会をいただき感謝いたします。

1 年生に向けた授業で「問題研究セミナー」という時間がある。担任として私が 33 名の学生を受



け持っており、今日はその中の 5 名が一緒に来た。私が与えたテーマでは全くなくて、大玉村という言葉も本人たちから出てきたものである。地域に育ててもらいながら、社会を見てこれから旅立っていけばいいなということもあって、今日は斎藤指導主事を通して無理なお願いかと思ったのだが、この話をしたら学生の希望通り CS 委員会を見学することができた。

皆さんには本当にご理解とお力添えをいただいたことを感謝します。今後ともぜひ（学生を）育てていただければと思います。よろしくお願いします。

(座長) ありがとうございます。今日は一緒においでになった森本先生にもお話しいただきありがとうございました。

他に何かご意見、ご感想があれば伺いたい。今年も熟議を取り入れたが、楽しくて時間があっという間に過ぎたのではないかなと思う。来年に向け、先ほど各校園の代表の方々からいただいた内容を生かせるようにしていきたい。どのように生かしていくかについて話し合いたいと思うが、なかなか時間がなくてできずにいる。それが曖昧さにつながっているのではないかなというご意見もあるわけだが…。

(CS 委員) ～意見等はない様子～

(座長) 皆さんからご意見等がないようなので、ここで協議を終了する。

6 その他

(指導主事 斎藤 一範)

(1) 各校・園主催の学校関係者評価について

- 今後各校・各園から学校関係者評価委員会の案内が出される。
- 次回の CS 委員会で、各校・各園の評価結果についてリーダー（委員長）に説明いただく。

(2) アンケート「今年度の成果と課題」の提出について

- 提出は 2 月 4 日（金）までをお願いしたい。（直接の提出、郵送、電子メール、FAX 等可）

(3) 全国 CS 研究大会 in 三鷹市について

- YouTube でアーカイブ配信予定

(4) 次回（最終）の予定 2 月 24 日（木）18:30～

- 各校園の学校関係者評価に関する報告
- 令和 4 年度各校園の教育課程（案）の説明及び承認
- 令和 4 年度 CS 委員会計画
- 各校・各園からの報告

7 閉会のことば

(おおたま学園 CS 委員会副会長 館下 愛理)

皆さんお疲れ様でした。これで令和 3 年度第 8 回おおたま学園 CS 委員会を終わります。寒さで駐車場が凍っていますので滑らないよう気をつけてお帰りください。ありがとうございました。